

## 第 1 回 加賀市上下水道事業経営検討委員会

日 時	令和 7 年 9 月 9 日（火） 14：00～15：45
場 所	かが交流プラザさくら 201 会議室
議 題	（１）加賀市上下水道事業経営検討委員会について （２）加賀市の上下水道事業の現状について
資 料	加賀市水道事業 概要（資料１） 加賀市下水道事業（資料２） 加賀市上下水道事業の経営状況について（資料３）
傍聴者	なし
1. 開会  2. 挨拶 3. 委員紹介 4. 委嘱状交付 5. 事務局紹介 6. 会長及び副会長選出 7. 議事 <div style="margin-left: 20px;">事務局</div>	事務局より会議の成立について、全員出席ということで、加賀市上下水道事業経営検討委員会設置規程第 6 条第 3 項に基づき、会議が成立していることを報告。  副市長 挨拶 委員を紹介し、それぞれ挨拶 委嘱状の交付 事務局を紹介し、それぞれ挨拶 委員互選により会長及び副会長を選出、承認 会長挨拶  設置規程第 6 条第 2 項の規定により、議事進行は会長が会議の議長を行うこととする。  資料の説明 「加賀市水道事業 概要（資料１）」 「加賀市下水道事業（資料２）」 「加賀市上下水道事業の経営状況について（資料３）」 について説明
8. 質疑応答 <div style="margin-left: 20px;">会長 委員①</div>	質問や意見がないか。 4 点教えてほしい。 まず水道事業の方で、県営用水供給事業、すなわち県水だが、水源はどこからで、取水位置はどこなのか、ということがまず 1 点目。 給水量の推移のところ（資料 1 の P10）でグラフが上がっている原因は何かというのが、2 点目。 下水道事業の方で終末処理場のしくみ（資料 2 の P8）で、放流先の状況とか BOD（生物化学的酸素要求量）というのは、どういう風に調べ

事務局	<p>られているのか、ということが3点目。</p> <p>最後に4点目、能登の地震の際に、水道・下水道としてはどういう損害があったのか教えてほしい。</p> <p>1点目、県水の水源は、手取川ダムを貯水施設として、そこから下流に放流している。その放流先の取水場から水を吸い上げたのち、白山市の鶴来浄水場で浄水をしている。その浄水した水を、送水管を利用し、七日市送水ポンプ場（消防本部前の道の円形の建物）まで運び、水を供給している。</p> <p>2点目、給水量の推移グラフについては、水をたくさん使う企業を誘致したことが、給水量グラフが上がった要因となっている。その企業は、通信機器等のタッチパネルなどを製造しており、液晶パネルなどを洗浄するためにきれいな水が必要であり、大量に水を使用することが具体的な要因である。この大口の需要による収益はかなり大きく、全体の約10%を占めている。</p> <p>3点目、下水処理場の放流については、終末処理場の流入水のBOD値、そして放流水のBOD値について、終末処理場の入り口には必ず、最初沈殿池があり、そこで毎日採集をし、水質検査をしている。処理を行った後は、塩素で殺菌し河川に放流している。BODは生物化学的酸素要求量という水の汚れの指標で、放流の際には10以下としている。放流先は、片山津浄化センターは柴山潟、大聖寺川浄化センターは、大聖寺川としている。</p> <p>4点目、令和6年能登半島地震について、下水道事業では、管への影響があり、管のたるみにより流れにくくなったところが約2キロメートルあった。現在、最終的な補修工事も進めており、工事はほぼ完了している。片山津浄化センターでは、地盤の変動によって地下水が流入したことから、大掛かりな復旧工事を行っている。</p> <p>水道事業では、管路の破損により約400件断水となった。断水は2日以内に復旧し、地震の被害としては比較的少なかった。</p>
委員②	<p>2点教えてほしい。</p> <p>1点目、県水の責任水量はどれくらいあり、加賀市が買い取らなければいけない契約はいつまで続くか教えてほしい。</p> <p>2点目、資料2のP10に記載のある2つの汚水処理場を大聖寺川浄化センターに統合する計画について、大規模な資本投資が今後必要かと思うが、その資本投資に加え、施設や管路が老朽化し、非常に大きな費用</p>

事務局	<p>がかかると思うが、その辺のところを今後どうしていくのか教えてほしい。</p> <p>1 点目、県水の責任水量は、1 日あたり 13,980 m<sup>3</sup>を最低限受水する契約となっており、この条件での受水があと 10 年続くことになる。</p> <p>2 点目、2 つの污水处理場の統合計画については、現在、新たなポンプ場を建設中で、約 25 億円はかかる試算となっている。加えて、既設の加賀中継ポンプ場に、ポンプを増設する予定である。</p> <p>また、統合先の大聖寺川浄化センターにおいても、片山津の汚水が増えるため、処理汚水の増加に備え、機械設備の増設が必要になってくる。新たな処理場を建設するために約 100 億円かかることに比べると、費用は抑えられるが、かなり高額な費用がかかるのも事実である。</p>
委員③	<p>資料 1 の P17 の経営指標分析において、管路経年化率と管路更新率に、全国平均より良い結果だということを示すニコニコマークがついているが、要因としては何が考えられるか。ただ単に、都市部での管路の整備が加賀市より早かったために、全国平均より加賀市のほうが管路の劣化及び更新率が良いというだけではないのか。</p>
事務局	<p>管路経年化率と管路更新率の指標が良かった要因については、都市部に比べて管路の整備が遅かったのも事実であるが、10 年前に策定した水道ビジョンにて、有収率の向上及び経営効率化のため、施設の更新よりも管路の更新を優先することとしたことが大きな要因だと考えている。</p>
委員③	<p>資料 2 の P16 の污水处理単価が全国平均より上回っているのはなぜか。地域としての特殊性が要因なのか、単なる経営努力不足ということなのか。</p>
事務局	<p>污水处理単価が全国平均より上回っていることについては、有収率が悪いことが一番の要因となっている。下水管の中に入ってくる地下水や雨水などのいわゆる不明水、つまり、本来は入ってきてはならない水によって処理水量が増加し、污水处理単価が高くなっている。片山津処理区は供用開始から 50 年経過しており、管路の破損や老朽化によりどうしても不明水の流量が増えている。</p>

<p>委員③</p> <p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>加賀市は温泉地だが、温泉の成分によって管路が損傷するということはあるのか。</p> <p>温泉成分による影響はゼロではないが、大きな影響はないと認識している。事業開始当初に布設された管は、つなぎ目が甘く密閉性が足りない品物となっており、そういった管から地下水が多く入ってきている可能性があると考えているが、現在是对応できていない状況である。</p> <p>意見も出尽くしたようなので、このあたりで議事を終了する</p>
<p>9. 閉会の挨拶</p> <p>事務局</p>	<p>部長 挨拶</p> <p>長時間にわたりありがとうございました。これで第1回上下水道事業経営検討委員会を閉会する。</p> <p>次回の審議会日程 令和7年11月19日（水）14時からを予定し、会場等の詳細は後日連絡する。</p>